

校長室だより

令和7年11月28日（金）
第 31 号
十日町市立中条中学校校長室

3年生の進路決定及び三者面談について

前号までの校長室だよりで、卒業後の進路や高等学校、ウェブ出願などをお知らせしてきました。3年生にとってはよいよ進路決定の時期が迫っています。

3年生は、12月10日（水）～12月12日（金）と1月21日（水）～23日（金）の2回、三者面談が予定されています。12月は進路希望と進路日程の相談、1月は進路希望の決定となります。今年の3年生は多くの生徒が公立高等学校を第1志望にしていると聞いています。この2回の面談を通して、「初めての人生の選択の場」になります。

以前「人生は選択だ」とキャッチフレーズにしていたTVコマーシャルもあったような気がします。アメリカの研究によれば、人間は1日に最大で約35,000回の選択や決断をしている。食事に関する決断だけで1日約226回と言われるくらい、実際に「選択と決断」を繰り返しているのだそうです。「何を食べようか、何から食べようか」等も細かい選択と決断です。



このように私たちは、人生の中で何度となく「選択」を繰り返しています。とはいえ、義務教育を終える段階でのこの「選択」は人生の中で最初のかかなり大きなものです。

面談を迎えるにあたり、お願いや私の考えていることをお伝えします。参考にしてもらえたらと思います。下級生も一読いただけたら幸いです。

自分の三者面談、今でも鮮明に覚えています

私が中学生だった時も、進路選択にあたり、三者面談を経験しました。その時のことは今でも鮮明に覚えており、頭から離れません。私にとって大きな糧になったともいえます。

当時は入試のシステム自体が今とは大きく違ってきます。

- 当時は、
- 1、推薦選抜はなく、全員が一般選抜を受検した。
 - 2、学区が定められており、普通科の進学は学区内のみ受検可能。商業科や工業科などの実業学科は全県のどこでも受検できる。
私は、旧小出町（現、魚沼市）に居住しており、普通科の高校は魚沼学区内（小千谷市、魚沼市、南魚沼市、十日町市、中魚沼郡）しか受検できませんでした。
 - 3、模擬テスト（現、学習の確認テスト）は各教科50点満点の250点満点、各志望校高校別の自分の順位がある程度分かった。

- 今は、
- 1、特色化選抜、一般選抜、欠員補充のための2次募集等、複数の受検機会がある。
 - 2、全県どこの高校、どの学科でも受検できる。
 - 3、学習の確認テストは500点満点で、志望校別の順位等は一斉出ない。

私は中学校3年生で部活動の一線を退いた後、学区内の普通科高校を目指し、学習を進めてきましたが、決してよく勉強したとは言えない生徒でした。

三者面談の席上、その日は父が同席しました。母が看護師だったこともあり、中学校の面談はほとんど父が参加してくれました。担任から志望校を確認され、「六日町高校」と告げると担任の先生は「定員に対して、大体このくらいの位置にいるから大丈夫だろうと思うけど、小出中学校から行く予定の生徒の中で最下



位だからね」と言われました。この「最下位」という言葉は衝撃でしたが、ここまで自分がやっていたことも素直に認めるしかありませんでした。面談から3月の受検まで、必死にやるしかありませんでした。面談の言葉で自暴自棄にならなかったことは自分にとって良かったなと思います。

受検番号は8番でした。六日町高校の玄関の合格発表の掲示を見るまで、ドキドキだったことを覚えています。



その当時のように、今は、「学習の確認テストのこの点数だから、その志望校のこの位置」というようなデータは出てきません。進路指導は、中条中学校のこれまでの進路指導で蓄積したデータや近隣の学校と情報交換したデータに、倍率を重ね合わせ、大体これくらいがボーダーではないかと予想しています。実際にどうなるかは全く分からない状況です。

これまでの学習の確認テストでこれくらいの点数を取ったからと言って、当日に同じように、又はそれ以上の成績を残せばいいですが、その保証はまったくありません。

ましてや今年は近隣の高等学校での学級増と学級減があります。十日町近隣だけを考えれば、十日町高校の学科の新設、六日町高校の1学級増により、いいかと考えるかもしれませんが、小千谷高校、長岡大手高校の1学級減がどう影響するかです。上越線沿線の生徒は結構、長岡市内や小千谷市の高等学校に進学しています。学級減により、魚沼地域の上越線沿線の学校の倍率が上がる場合があります、それが十日町地域の学校にも影響する可能性があるからです。

残念ながら、それが受検の現状です。これまで3年生の担任を中心に、それぞれの生徒の状況を鑑み、進路指導をしています。学校は持っている情報をできるだけお伝えしアドバイスしますが、絶対ということはありません。最後は、生徒と保護者で決めてください。そして、一度決めたら、その目標に向かいどう準備を進めるかということです。生徒が自分を信じて頑張るしかありません。

教諭時代の三者面談で思い出すこと

これまで、3年生の担任を8回経験しました。どこの学校でも同じような時期に三者面談を行います。1月の三者面談、決定の面談は、多くの場合、生徒と保護者が同意して方向性が決まっており、挨拶をして志望校の確認をし、(当時は)入学願書に押印とし、5分以内で終わる場合が多かったと思います。時間がかかる場合は、「12月の面談で志望校を決定せずに1月の学習の確認テストの結果を見て最終判断しましょう」という場合です。しかし、この場合も1月の学習の確認テストを受検した後で生徒がその感触を保護者に話している場合が多く、そんなに時間をかけず決定しました。



一番時間がかかるのは、家庭で何も話し合いがなされないままで、三者面談にやってくる場合です。大体、面談の席で親子がけんかします。けんかをしてもそこで決定できればよいのですが、けんかする親子の場合の多くはそこで決まりません。「もう少し時間をください」となります。

実際に中学校がWeb上で出願するのは、2月16日(月)からなのですが、出願のために書類作成や準備など、かなりの時間を要します。ギリギリの仕事にならないように面談の日程を決めています。そこを十分ご理解ください。

そのため、12月から1月にかけて、家族で十分話し合いをしてください。特に1月の三者面談の前までには是非お互い納得した上で、面談に臨んでください。面談前に担任への相談が必要なら遠慮なく連絡ください。

人生最初の大切な「選択」の場面、保護者の皆様の準備も確実に行ってください。